

幸水だけでなく二十世紀の梨の出荷が始まりましたが、信州もいままでいらなかった冷房がここに来て活躍している暑い秋です。この夏の話題をお届けし、研究会の秋からの本格的な取り組みへ決意表明とします。



(すでに一部収穫の「飯田りんご並木」)

## 京都「環境自治体戦略会議」で

8月7・8日、京都市での「第5回環境自治体(エコシティ)をつくる市区町村長と環境 NGO の戦略会議」に沢柳事務局長と参加しました。この会議は、「環境保全と地域の経済振興、雇用創出を両立させる」「地域の様々なセクター、人々の参加とパートナーシップを構築する」「エコシティをつくる主体となる人材育成」をめざすものです。首長みずからの取り組み発表をはじめ、自治体などの情報交換の場となっています。2日目のセッション5「率先行動と環境マネジメントシステム」で、研究会による「南信州いむす21」という、この地域独自のEMSの普及支援をとおした環境改善の地域へのひろがりを発表しました。



(京都「コープ・イン・京都」での戦略会議)  
「計画を推進するための戦略」「地域からの地球温暖化防止とまちづくり」が今年のテーマ。飯田では毎年この時期、市民と人形劇人の夏の祭典「人形劇フェスタ」の真っ最中。5回のうち2度目の参加でした。

## 水俣「ISO14001 自己宣言の効果と活用」分科会で事例発表

8月23・24日、熊本県水俣市で「第17回牛乳パックの再利用を考える全国大会」が開かれ、その第5分科会で飯田市役所の自己適合宣言への移行の事例発表をする機会を得ました。飯田市が総合4位となりました環境首都コンテスト2002では、負の遺産である水俣病からプラスの環境へ、国際的な環境モデル都市づくりを進めている水俣市は総合3位。水俣市は、1999年2月にはISO14001を認証取得し更新済みですが、行政の中でEMSをより活用するよう自己宣言方式への移行をめざしています。1月23日、ISO14001審査登録から自己適合宣言へ移行した飯田市の背景や問題提起は、遠く水俣市でも真剣に議論されました。



(水俣「もやい館」での分科会)

水俣病でバラバラになった縁を直す地域づくりを「もやい直し(もやい:船の綱)」と呼んでいますが、飯田は結いの田、結いともやい。交流会では魂に響く楽しい水俣ハイヤの踊りに参加しました。そして水俣市の職員の方々と火星の下での本音の二次会。苦しみを超えた水俣から本物の元気いただきました。

## 「環境関連法令セミナー」

8月22日に研究会メンバーの飯田信用金庫が主催する環境関連法令セミナー(無料)が開かれました。ISO14001などの環境マネジメントシステムに取り組む企業の担当者ら約100人が受講しました。3時間のセミナーでは、最近の主な改正や新法のほか、法令に関する照会の仕方についても詳しく説明されました。飯田信金では今年度、「内部監査員養

成」や「ISO9001/14001 統合」セミナーの開催も予定されています。



(「飯田信用金庫」会議室でのセミナー)  
頻繁に改正される法令を、各事業所の必要に応じて把握することは難しいこと。こうしたセミナーが地域の環境改善のレベルアップに大きく貢献することを確信します。

## 「研究会事業所代表者全体会」

いよいよ、9月11日、事業所代表者全体会が3月13日以来、6月ぶりに開かれます。今回の会議では、この研究会の組織・運営のあり方を方向付けることとなります。実務者全体報告会や事務局での検討を経た研究会や「南信州いむす21」見直し案をもとに、組織での討議を踏まえ事業所代表者により決定されます。「南信州いむす21」は、この地域から大きな期待をもって受け容れられ、研究会としてもシステム改善や支援体制など新たな段階へのステップアップが急がれています。



(研究会の今後を見守る風越山)

研究会、そして研究会メンバーの環境改善の取り組みが注目され評価されて、雑誌などの取材も、この夏、多く受けました。地域内での期待と外からの注目、それに応える私たちの力量とは...、暑い秋に動き出します。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「信州環境フェア2003」

### 研究会も3年目の出展

当研究会は、19～20日「信州環境フェア2003」に今年も出展しました。今年のテーマは「めざそうみんなの循環型社会～地球にやさしいって、どんなこと？～」。松本市のやまびこドームを会場に始まった「信州環境フェア」は、長野市のビッグハットへ昨年、会場を移して今年で3回目、研究会の出展も3年連続となりました。



情報発信のための出展ですが、搬入設置・説明・撤去搬出など研究会の多くの仲間が関わってくれるイベントにもなっています。他のブースからはもちろん、研究会参加者同士の交流から大きなヒントを得ています。



出口近くの私たちのブースは、ステージや体験コーナーにも近く、研究会というちょっと固い内容にもかかわらず多くの人たちに取り組みを見ていただくことができました。



いろいろな業種の集まりである研究会、パチンコ台のリサイクルの様子、太陽光発電によるダンシング熊ちゃん、エコドライ

ブチのエコ虫やどんぐりの若木など楽しさをいかに伝えていくかが課題です。しかし、県産材の木工コーナーやぐるみやどんぐりを使ったクラフトコーナーのように「展示」だけでなく「体験」の要素がないと、人気のコーナーという訳にはいきませんね。

## いかに多くの人に会場へ足を運んでもらうか

出展するだけの私たちと違い、主催者側はさまざまな工夫で、この「環境」を考えてもらうイベントの運営に苦勞していることでしょう。会場のビッグハットと長野駅東口を「アイドリングストップバス」がお客さんを運びました。車が止まり、ニュートラルにし、クラッチペダルを離すとエンジンが自動停止し、クラッチを踏み込むとエンジンが自動再始動するというもの。そう遠くないうちに、これが普通になるのでしょうか。出展企業や団体も「環境の世紀」をリードする大きな役割を担っています。

エンディングセレモニーで、来場者は14000人を超えたと発表されました。「14000人超」ということは14001人？ ISO14001など環境マネジメントシステムに取り組む研究会にとって、これって、何とも、たまらない数字。



2日間のフェア期間中、人が一番集まったのは、やはり、このシーン、ステージ上では、NHKでおなじみ「おじやる丸めいぐるみショー」でした。環境をいかにわかりやすく伝えられるか、ショーの内容は、むりやり環境に結びつけるものではなく一安心？これとは別に「ドーもくん、うさじいといっしょに環境クイズ」もありましたから…。



## 「ぐりいんだ」も出展

飯田市の環境配慮型認定製品「ぐりいんだ」も今回のフェアに出展しました。「ぐりいんだ」は、市内の事業者が開発・製造した環境に配慮された製品を市が独自に認定するもので現在14製品が認定されています。その事業所が認定製品のPRの場として参加しました。

[http://www.city.iida.nagano.jp/kougyou/uka/guri\\_iida/](http://www.city.iida.nagano.jp/kougyou/uka/guri_iida/)



世界的な環境先進都市、水俣市などで起きた土砂災害、豪雨被害で亡くなられた方のご冥福と不明の方の一日も早い発見と復旧をお祈りします。

「星野道夫の宇宙展」が長野県近くで開かれていました。(7/18～30、ながの東急シェリェ) アラスカの大自然と動物など圧倒される写真と心を揺さぶられる文と言葉の中に、次の文がありました。少し長いのですが紹介します。「いつか、ある人にこんなことを聞かれたことがあるんだ。たとえば、こんな星空や泣けてくるような夕陽を一人で見ていたとするだろう。もし愛する人がいたら、その美しさやその時の気持ちをどんなふう伝えるかって?」「写真を撮るか、もし絵がうまかったらキャンパスに描いてみせるか、いややっぱり言葉で伝えられたらいいのかな」「その人はこう言ったんだ。自分が変わってゆくことだって...その夕陽を見て、感動して、自分が自分が変わってゆくことだと思ってる」人の一生の中で、それぞれの時代に、自然はさまざまなメッセージを送っている。この世へやって来たばかりの子どもへも、去ってゆくこととする老人にも、同じ自然がそれぞれの物語を語りかけてくる。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 研究会実務者全体報告会 見直し事務局案を提示

7月16日(水)、研究会の実務者全体報告会が「環境技術開発センター」で開かれました。前回の会議では、研究会のあり方、「南信州いむす21」の支援 仕組みなどについて、多くの課題が出て、早急に見直しすることになり3回の事務局会議での検討を経て、事務局案として提示されました。

課題 問題点は絞られてきている、「検討」からいかに「実行」に移せるか、その段階にきているとの認識をもって、6事業所による3回の事務局会議で見直し案が作られました。6月2日 10:00~ 12:00 7月 15:00~ 17:00 7月15日 17:30~ 19:00



## 研究会の見直し案

- 1.現在の研究会参加事業所は、8月末までに研究会への参加・不参加の意思表示を行い、今後も、年度末に定期的な参加・不参加の意思表示を行うとともに、新たな事業所への参加呼びかけを行う
- 2.研究会の年度を9月1日から8月末とする。
- 3.研究会全体の年間スケジュールを決め、その実行を、これまでの固定の分科会ではなく、フレキシブルなグループや担当での活動により進める。
- 4.実務者全体報告会を定期的開催し、事業所見学会やセミナーをはじめ事例発表、事例報告など研究会本来の相互研鑽の場として充実を図る。
- 5.参加事業所と連携して環境法や内部監査員養成の研修会・セミナー等を主催 共催するとともに、「どんぐり」など研究会独自のイベントを企画 運営する。

民間主導のボランティアな研究会に対する期待や求められるものが多くなり、重くなっています。研究会の目的をあらためて確認し、28事業所それぞれが参加する目的を考え直す時期にきています。そして、参加のメリットも含め、本来の研究も大事に、何より魅力のある研究会にしたいと考えます。

## 南信州いむす21見直し案

- 1.南信州広域連合と連携して進めている現在の「南信州いむす21」は、環境を意識した事業所をさらに増やし裾野を広げる目的で、原則として現在のレベルのままとし、積極的な支援ができるよう仕組みを検討する。
- 2.「南信州いむす21」登録事業所の継続的改善を無理なく図るため、研修会への参加や相互の事業所見学などの条件を順次加えていく。
- 3.現在の「南信州いむす21」とは別に、研究会が独自に支援 認定するレベルの高い2つの仕組みを早急に事務局を中心に構築し、運用開始する。
- 4.そのひとつは、「エコアクションながの」「エコアクション21」との相互認証ができる程度のレベルとし、事業所の主体的な取り組みを研究会が無料で指導 支援するものとする。
- 5.もうひとつは、ISO14001の要求事項にさらに「相互内部監査」や「システム全体の公開」など透明性 客観性の要素を加えた自己(適合)宣言レベルとし、地域内の審査登録の返上 移行の事業所の結集をめざし、信頼性を高めるため認定するが、あくまでも自己(適合)宣言、その事業所の説明責任を原則とする。



ひぐらし(セミ)の声、暑さがおさまった5時から2時間の会議。小さな組織であっても「南信州いむす21」など環境改善は

自発的であるべきですが、研究会としての関わりがなくなれば、取り組みはきっと止まってしまうでしょう。しかし、研究会としての、参加事業所としての責任や役割はわかるものの、自分の業務のほかの研究会活動、その悩みや不安が多く出ました。あらためてこの研究会のすごさを痛感しました。



## 9月11日の研究会事業所 代表者全体会で方向づけを

示された見直し案は、それぞれの事業所で検討され、9月11日10:00~12:00市役所りんご庁舎での事業所代表者全体会へ提案され、審議され、方向づけされていくこととなります。

## 明日から「信州環境フェア2003」

オリンピックのアイスホッケーなどが行われた長野市のビッグハット、19~20日「信州環境フェア2003」に今年も研究会で3度目の出展をします。今年も、研究会から多摩川精機(株)平和時計製作所、中部電力(株)飯田支店が単独のブースで参加します。



研究会ブースでは、旭松食品、三菱電機中津川製作所飯田工場、パチンコダイエーグループなどの取り組み、「南信州いむす21」をはじめ研究会全体の紹介をします。私たちの大切な仲間「どんぐり」も、さきほど設営の先発班といっしょに長野へ向かいました。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機)

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 研究会実務者全体報告会 環境技術開発センターで

6月13日(金)、研究会の実務者全体報告会が環境産業公園にできたインキュベーション施設「環境技術開発センター」で開かれました。まず4月から配属されている工業課の福井マネジャーから説明を受け施設を見学。地元産材を80%使った木造の建物では、6事業所がすでに24時間稼働で研究開発を始めています。

研究会活動は、それぞれの分科会や南信州いむす21の支援や登録審査で行われていました。実務者も何人か人事異動となり少し間も空きましたが、今年度の研究会全体としての本格的なスタートです。



## 全体で新聞古紙の回収を

「さくげん分科会」事業所が1年間試行した新聞古紙回収を研究会全体の取り組みとすることになりました。環境産業公園内にある研究会メンバーのエコトピア飯田株へそれぞれの事業所が持ち込み建築用断熱材へのリサイクルにするものです。

さくげん分科会では、研究会全体のスケールメリットをめざし、共通した廃棄物削減の取り組みをさがしてきましたが、異業種の集まりの当研究会、廃棄物もさまざま、その考え方もさまざままで苦労したようです。

## 環境施策への意見反映を

「環境文化都市」をめざす飯田市は、「環境首都コンテスト総合第4位」や「第12回環境自治体会議」の来年5月末の開催など、外からの評価を受け始めています。一方、スウェーデンのカルマル市との「環境交流セミナー」や「森呼吸フォーラム」などにより、脱温暖化社会へのシフトを着

実に進めるため、新エネや省エネのビジョンやプランづくりも手がけています。行政・市民・事業者の協働、立ち上げられる「市民会議」に研究会としての責任ある意見反映を今まで以上にしていくことになりました。

「21いむす環境プラン」の進行管理、「省エネプラン」の策定、「生活と環境まつり」の企画、「環境自治体会議」の運営などなど。それぞれに代表を出し、主体的に、そして研究会全体として関わっていきます。



## 南信州いむす21が...

多摩川精機協同組合全体の登録がなされ、登録件数も38、取組事業所も80事業所となっています。さらに商栄会や地区の土地管理組合、高校で新たな取り組みの準備が進められています。地域内で期待されると同時に、地域外などからも評価され、他の仕組みとの相互認証という話まであがっています。期待に応えられるシステムと体制が急がれています。

南信州いむす21の登録までの研究会としての支援はしやすいものの、登録後の事業所の取り組みを維持するための支援は難しいものがあります。研究会参加事業所にとっても支援は大きな学びですが、負担も耐えられるものでなければなりません。

## 事務局で、そして全体検討

南信州いむす21のシステムの見直しと整備、研究会の組織・運営のあり方そのもの見直し、それは大きな課題ですが、避けて通れない問題です。6事業所による事務局で見直し案をつくり、次回の実務者全体会で検討することになりました。約1か月、集中した議論・検討を事務局が中心となって進めます。

会議の研修室はヒノキのかおりに包まれ、

さわやかな風とともに小鳥の声。7月16日(水)、次回の実務者全体報告会もこの施設で行うことになりました。会議の時間設定にも意見が出て、参加しやすいようにと次回は17時からの始まりです。

## 今年も「相互内部監査」が

環境産業公園にあります(株)アース・グリーン・マネジメント事務局の内部監査を午前中、市役所の担当2人が行いました。研究会の「相互内部監査」、今年も始まりました。

とくに事務局の内部監査は、多くの知識が求められ、誰が行うのか、どの組織でも悩みの種。組織内ではなく他の組織のISO担当者にそれをお願いしようというのが「相互内部監査」の始まりです。飯田市役所の昨年の内部監査は、30課中23課に研究会も含めて49組織74人の外部の人が参加して行われ、自己適合宣言への大きな弾みとなりました。研究会の中でも「出向」「受入」という「相互」の輪を広めたいものです。

## あのどんぐりが若木に

昨秋の「生活と環境まつり」に研究会が集めて配り、その残りの一部を(株)アース・グリーン・マネジメントの敷地に植えてもらった「どんぐり」がこんな立派に成長していました。



集まった3万個のどんぐりは、環境産業公園のほか子どもの森公園、クリーンセンターなどに植えてもらいました。すべてが植えられる芽を出してはいないでしょうが、実際に長い列となって育っているのを見たとき、本当にうれしくて...。人を動かすのは感動...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「環境の日」、飯田市で

### しんこきゅう 「森呼吸フォーラム」

地球温暖化防止のためには、「新エネルギーの活用」と「省エネルギーの実践」が不可欠。 - 6月5日の環境の日、飯田市では森呼吸(しんこきゅう)フォーラムが開かれ、約100人が参加するなか、市民・事業者・行政が地球環境対策への大きな一歩を踏み出しました。

## 温室効果ガス 10%削減へ 新エネビジョン見直し

飯田市の環境プランには、2010年までに温室効果ガスを10%削減(対1990年比)する目標が掲げられています。この実現のために「新エネルギービジョン」を策定し、取り組んできましたが、このビジョンの見直しを余儀なくされています。

温室効果ガスとは、CO<sub>2</sub>などの地球温暖化の原因となるガスです。1997年に採択された京都議定書における日本の温室効果ガス削減目標は6%ですが、環境文化都市をめざす飯田市はこれを10%として施策を展開しています。



飯田市は新エネルギービジョンを全国に先駆けて平成7年度に策定しました。しかし、新エネルギーに関する技術開発の進展 新エネ法改正などの制度改正 新エネルギー発電法(PRS法)の施行など、新エネルギーをめぐる環境が著しく変化したため、この見直し作業が進められているのです。

## 化石燃料は残り 100 年

この日のフォーラムには、2人の

講師が招かれましたが、そのうちのひとりで、風力発電システムの国内第一人者の関和子さん(東海大学教授、新エネルギー・産業技術総合開発機構委員長)は、「化石エネルギーは今の生活のままでは残り100年もたない。江戸時代のエネルギー状況になるのは必至。」としたうえで、次のように語りました。

## 地域のためにも

### 楽しみながら...

「新エネルギーにシフトしなければならぬ時期が、いつか必ずやってきます。飯田市のように地域全体が積極的に取り組むことのメリットは大きく分けると3つあります。



#### 環境対策

地球環境への取り組みは地域から。いくら地球全体の環境がよくなっても地域が悪化しては悲しいですね。

#### 地域のエネルギー確保

身近なエネルギーの確保は、地域の暮らしを守ります。

#### 地域産業の創出

今後、必ず求められる分野だけに、新たな技術・産業は雇用の確保などに直結します。

また、導入できる新エネルギーの条件としては、まず安全性、次いで安定性の確立が不可欠です。最初はオモチャから。楽しみながら考えれば、いいものができるでしょう。」

飯田市下久堅地籍に今秋「風力発電装置」が設置されます。これを機に、様々なエネルギー施策の展開に結びつけていくことが大切です。まずは、専門家による指摘をいかして、現実的で目標達成に向けた新エネルギービジョンへの見直しを。飯田市から全国に「新エネルギーの可能性」を発信できる日が待ち遠しいですね。

## 環境にいい生活は

### 我慢する生活か？

すぎもと

萩本 育生さん(環境NGO「環境

市民」代表)は、新エネルギーの活用と同時に省エネルギーへの取り組みも重要であるとしながら、「日本人は、環境問題に対する関心は高いのに実際の行動が伴わない。環境にいい社会、環境にいい生活は我慢する生活だと勘違いしている。我慢なんて誰もができない。」と指摘します。



さらに、「新エネルギーの技術開発はもちろん重要だが、それを活用する市民・社会の構築がもっと大切である。」とし、環境を産業や雇用に結びつける感性が必要であると訴え、国内外の成功事例やユニークな取り組みを紹介しました。

今回のフォーラムでは、研究者、市民、事業者、行政のそれぞれが担う役割が明確に示されました。参加した市民約100人から多くの市民へ、そしてその声が地域を動かし、さらに全国へ波及...2人の講師は共に「いろんな活動、効果を飯田市から発信できるように取り組んでほしい。」と期待していました。

ぐるみ通信 33でお知らせした「環境技術開発センター」が、2人の講師が話すように雇用の確保などにつながると、地域全体が楽しみながら環境問題に向き合えることでしょう。環境の日、地域ぐるみで環境への取り組みができました。この日だけの市民意識にならない施策展開を...

#### 【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「環境の日」、飯田市では

6月5日は「環境の日」。1972年6月5日からストックホルムで開かれました「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」とさだめ、日本では「環境基本法」で「環境の日」、「環境月間」（6月の1か月間）を決めています。今年の統一テーマは、「はじめています。地球にやさしい新生活。」

この日の飯田市の環境の話題をふたつ、35と36で紹介します。

## 2001年10月スタートした

### 「南信州いいむす21」

「南信州いいむす(EMS)21」は、ISO14001の基本的な取り組みをもとに、この地域独自の簡易なシステムとして2001年10月から始めた環境改善活動です。事業所での自発的な小さな取り組みが地域全体の大きな運動になることを、たとえ事業所内での小さな点としての活動でも地域全体に広がれば大きな面となると信じての手さぐりの挑戦です。

環境改善は、あくまでも「環境への思い」というような純粋な自発的なものであると考えています。しかし、ボランティアな活動を続けてきた研究会にとって「取組宣言」を提出した事業所を実際に訪問しての援助審査という手続きは、かなりの負荷がかかっているといえるでしょう。

## 31事業所に登録証を交付

環境の日に「登録証」がわたされたのは、31事業所。これで昨年3月の4事業所、昨年8月の3事業所に加え、全部で38事業所となりました。



後藤吉見多摩川精機協同組合長に交付

31事業所のうち28事業所は、多摩川精機協同組合の事業所です。この中にはISO14001認証取得の事業所もありますが、昨年の10月に取組宣言が提出されてから、組合全体で「いいむす21」に取り組みました。協同組合も認証取得し、そのノウハウを組合事業所に広めるばかりでなく、数社によるグループをつくり、取り組みを検証してきました。



(株)エントラル 信南ナビズ(株) アーミック(株) 多摩川精機協同組合 (株)北(株)カワ(有)愛光電子(有)赤羽製作所 飯田精密(株) (株)ヌーイー(有)大蔵製作所(有)大島電子(株)協電社(株)三和精機(有)トキョー精機 山京イテック(株)(有)ガノ京信(有)野中製作所 林製作所(株)丸宝計器(有)森脇精機(有)アイ精工(株)田中(株)田中精機(株)有浜島精機 テーエスエレクトロニクス(有)(有)三笠工場 コリダ(株)タマミヤマイコップ(株)ヒメキスト(有) 以外が組合。

## すその広がり、牽引役に

「南信州いいむす21」は、研究会と南信州広域連合が連携して進めています。それぞれの事業所に交付を終えた田中秀典連合長(飯田市長)は、次のようにあいさつしました。



環境の日に、このように多くの事業所の皆さんに「いいむす21登録証」をお渡しできましたことは、大変な喜びであります。5月末出席した屋久島における環境自治体会議で、みどり豊かなこの地域から、環境に関する情報発信していくことは、非常に価値あることと思われ、来年度は、この環境自治体会議を、飯田市を会場として開催することを、引き受け

てまいりました。

この会議は、「すべての部門を環境の視点から改革し、まちづくりのあり方を地球環境の持続可能な視点から検討することを基盤とした自治体づくり」を目指した全国規模のネットワーク組織で、基本的な考えを、「国境を越えて広がる環境問題の改善も地域の改善が最も大切」なこととしております。地域ぐるみの環境改善活動である「南信州いいむす21」と理念を同じくしております。

このような取り組みが当地域にありますことは、非常に喜ばしいことで、その登録事業所も38社となり、裾野の広がりを感じるところです。

本日登録証をお渡しした皆さんにおかれましては、その率先したお取り組みに対し敬意を表しますとともに、ますます、地域ぐるみの環境改善活動の牽引役としてご活躍いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 13日に実務者全体報告会

研究会の実務者全体報告会が今週末の金曜日に、オープンしたばかりの「環境技術開発センター」で開かれます。研究会各事業所の実務者も何人か異動となり、今年度の実質的なスタートです。「南信州いいむす21」の取り組み事業所も現在86となっています。さらに、商売会で、農地組合でという動きがあり、来年の環境自治体会議開催に向け、地域が動き出している感があります。

研究会の事業所代表者全体会で、南信州いいむす21の「経費はとるな」「タダにこだわってできるところまで頑張ってみろ」と指示されています。難しいですが、自発的な環境改善という原点を大切に、タダでできる仕組みづくりをさらに追求していきます。システム改善ばかりでなく、懸案となっています研究会組織の抜本的な見直しもあります。一気に忙しくなりそうです。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機(株))

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 第12回「環境自治体会議」

来年の5月26・27・28日

### 飯田市で開催

「環境自治体会議」の第12回会議が2004年5月26日(水)・27日(木)・28日(金)、ここ飯田市で開かれます。鹿児島県屋久島での総会で正式に決定しました。来年の飯田での会議、皆さんのお越しをお待ちしています。

全国74の自治体が加盟しています「環境自治体会議」は、自治体政策のあらゆる分野に、環境への配慮を取り入れることをめざしています。地球環境問題の解決には基礎自治体が環境政策を推進し、全国にイニシアチブの発揮を呼びかけています。

「環境自治体会議」のホームページ

<http://www.colgei.org/>

屋久島会議は、「つながろう地球生命圏～めざせ地域内循環～」をテーマに基調講演などの全体会と10の分科会で5月28～30日の3日間の予定で行われました。飯田市からは第9分科会での田中市長はじめ、3つの分科会で事例発表をしました。

台風4号がなぜ来たのかという第11分科会も交流会後、急きょ作られ、350人という参加者が持ってきた大きな「厄」を落とすには、普通の雨風では不十分。環境自治体会議事務局にとんでもない「台風男」がいることが判明されたそうです。

田中市長は、最終日の全体会で次期開催地のあいさつとして、りんご並木や人形劇フェスタなど飯田市の紹介とともに、昨年の白神山地、今年の屋久島という世界自然遺産の次に開催することを大きな誇りと喜びとするとしました。また、行政だけでなく市民・事業者と協働して、計画・運営していくとしました。

上屋久町・屋久町の皆さん、たいへん、お世話になりました。38年ぶりという5月の台風、ついぞ青空はもちろん、山の頂を見ることもできませんでした。「紀元杉」「ヤクスギランド」「千尋滝」など、ほんの一部でしたが、屋久島の自然を育てている雨風をしっかりと感じる事ができました。飯田には

世界遺産はありませんが、「飯田らしい」会議になるよう準備を進めます。

### 第11回 環境自治体会議 屋久島宣言

屋久島は古来、山岳信仰の島であった。島人(しまびと)は、自然の摂理のままに日々の生活(たつき)を営んできた。豊穡の年は山の神に感謝の祈りをささげ、苦難の年は平穏加護を祈願した。また時の流れがゆるやかな頃のことである。

ところが経済拡大という国策の前に、この島で大型チェーンソーの音の止む気配はなかった。そこでついに、島の若者たちが立ち上がった。原生林保護運動である。島は保護か開発かの葛藤を繰り返す。その結果、屋久島の進むべき道標(みちしるべ)が決定した。自立・循環型社会構築のきっかけは、この運動に端を発する。世界自然遺産への登録は保護運動の成果である。

環境自治体会議屋久島会議は、遺産登録10周年という節目の年に開催された。この会議に参画した我々は、人々の意志が環境破壊をもたらすこともあれば、自然が人々を突き動かして環境を守らせることもあることを学んだ。また、地域住民や事業者・行政が相互につながって、地域の環境保護・改善、さらには地域内循環に取り組むことが、本来の「環境自治」の姿であることを再確認した。

今日、地球環境は悪化の一途を辿っている。地球環境に負荷を与えないためには、自治・自立のみではなく、他の地域や地球全体のあらゆる生命とつながっていることを意識し、行政・事業者・地域住民一人ひとりが地域を越えて連携し、産業振興と環境を両立させる「維持可能な発展」を実践し、その内容を相互に検証しなければならない時期に来ているのである。

すべての生命体との共存をめざし、つながろう地球生命圏、めざせ地域内循環をメインテーマとする屋久島会議に参画した私たちは、互いに連携し情報を共有しながら、それぞれの地域において地球環境保全のための行動を自ら実践することを、ここに誓う。以上、宣言する。

2003年5月30日

第11回環境自治体会議

・屋久島会議参加者一同

## 「水道水飲用制限」の報告

4月22～23日の水道水飲用制限につき、原因調査の結果がまとまりました。松川から取水した原水は雪解け水に粘土成分が混ざった低水温の白濁状態。この白濁を除くために凝集剤の投入量を増やした。後の調査で、この時の原水のアルカリ度が低く、凝集剤の注入量を減らすべきだった。技術的な応援を求めるタイミングも逸し沈殿処理が間に合わず当初「給水停止」も検討したが市民生活への影響を考慮し「飲用不適」として処理。

浄水処理過程での問題とはいえ、多くの市民に対してのご迷惑をおかけしたことをお詫びし、教訓として今後活かしていきます。浄水技術の向上、浄水業務マニュアルの改訂整備、情報伝達の改善を図ります。

鹿児島までの飛行機の機内誌に、倉本聡さんのエッセイがありました。「...便利であるとはどういうことなのか。考え方によっては、東京は日本でもっとも不便な街じゃないのかな。また、東京=日本の文化の中心、という考え方にも大いに疑問を感じている...」台風真っ直中の島の中で見た気象情報は東京中心の「これから来る」といった「他人事」のようなニュースでした。地方からの情報発信も飯田での環境自治体会議の大きなテーマなのかも知れません。



「ヤクスギランド」での写真を1枚。上屋久町・屋久町のホームページへも...

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「アース・デー」inいだ

### 4/22この日、飯田市では

飯田市の妙琴浄水場の浄水能力が4月20日の雨の影響で40%以下に低下し、濁度が水道法の基準の「2度以下」を超えたため、22日午前4時に「飲料水としては不適」として給水を停止しました。松川を水源とするこの浄水場の給水区域は、約2万世帯、市の約半数の5万5千人が影響を受けました。

断水処置ではなく蛇口から水が出たため、オフトークや防災無線、広報車などで「飲料水としては使用しないよう」呼びかけ、県内外25市町村の応援で給水車30台で給水に当たりました。市の備蓄だけでなく、他の市町村名が印刷された10リットル入りの給水袋が3万袋用意され、各支所や大型店の駐車場などで深夜まで、そして早朝から配られました。



浄水能力日量3万トンの妙琴浄水場では、沈殿やろ過などで濁りをとっていますが、今回は、通常と違う「粘土質の高いもの」とみられる白色の濁りが発生し、薬品沈殿地で凝集剤の注入量を変えても効果が出ず、浄水能力を超えてしまったわけです。



翌23日午後0時半、市長による水道水の安全宣言により、32時間半におよぶ避難時の給水体制は解除されました。松川の濁りがおさまり、水道管の洗浄作業や5か所の配水池や40軒の家庭での蛇口調査で安全が確認され、「飲料水」となりました。

学校給食にもパンと牛乳だけの簡易給食や弁当持参といった影響も出ました。スーパーやコンビニのミネラルウォーターやポリタンクが品切れになったりしました。市民に多大な迷惑をおよぼした今回の事故、情報を正しく確実に伝えることの難しさを痛感するなど、対応が不十分であった点はしっかり反省し、緊急時の体制についても常日頃から準備しなければなりません。そして、今回の事故の原因を慎重に調査し、究明し、今後の対策も同時に求められます。

## 「環境技術開発センター」 環境産業公園内に完成



「環境技術開発センター」が完成し、竣工式が4月22日行われました。これは、既存企業やベンチャー企業が新分野への進出や新技術開発のための研究を行い、迅速に事業化していくための支援施設です。敷地1.1ヘクタール、延べ床面積862.54㎡の平屋建で、経済産業省の補助を受け総事業費は2億円。5部屋を持つメインのインキュベーター棟と管理棟の1部屋を合わせ、公募により6社が利用することになっています。

田中市長は、「飯田市のものづくりが環境文化都市の中で新しい地位を確立するための研究開発の拠点として活用し、産学官が連携してビジネス・インキュベーションに取り組み、新事業の創出と新たな雇用を確保し、地域経済の活性化を図ることをめざしている」とあいさつしました。

連休明けから本格的に利用が始まる6社は、研究会の多摩川精機株とオムロン飯田株のほか、夏目光学、FLC、スヤマ、開発技研です。利用期間は、5年以内、使用料は無料ですが、光熱水費や電話などの実費を入居者が負担します。

環境産業公園は、飯田市エコタウンプラン、天竜峡エコパレープロジェクトに基づく天竜川治水対策事業の土取場の跡地に造成された平地約7ヘクタールです。すでに4企業が立地・操業していて、このたび公園の北側にあるオムロン飯田株が生産拠点の拡張のため、立地することになり、4月21日に市と土地の売買仮契約を行いました。

「環境技術開発センター」の完成とあわせ、公園全体の利用が完成することになります。工場閉鎖をした三協精機飯田工場跡地に進出する多摩川精機株同様、この地域の産業界に大きな活力を期待したいものです。

あなたは文明に麻痺していませんか。車と足はどっちが大事ですか。石油と水はどっちが大事ですか。知識と智恵はどっちが大事ですか。理屈と行動はどっちが大事ですか。批評と創造はどっちが大事ですか。あなたは感動を忘れていませんか。あなたは結局何のかのと云いながら、わが世の春を謳歌していませんか。

あの「北の国から」の倉本聡さんが1984年（「地球白書」創刊の年）、富良野塾を開塾したときのメッセージです。「地球に感謝し、美しい地球を守る意識を共有する日」アースデイに起きた今回の水道事故。それは、安全で美味しい氷が当たり前のよう考えてきた緑豊かなこの地域の中で、あらためて私たちに水の尊さと、そして「重さ」をも教えてくれました。さまざまな要因が重なり合っただけの事故でしょうが、根本的な原因は、水源である山にあるのかも知れません。

そんな事故の日、アースデイに幸いなことに、いかに活用していくかが課題とはいえ、この地域の大きな期待を込めて「環境技術開発センター」が完成しました。イラク攻撃を知ったのは、参加した「世界水フォーラム」滋賀の会場でした。あらためて倉本さんの言葉をじっくりかみしめたいものです。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株)

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭(飯田市役所)

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「環境首都コンテスト」

### 飯田市が総合第4位に

「第2回環境首都コンテスト」の結果が発表され、飯田市は、全国からの参加 115 自治体中、総合順位が第4位でした。昨年の第1回は、93 自治体中、総合 12 位でした。115 自治体の中でとはいえ、政令指定都市の1位福岡市・2位仙台市、国際的な3位水俣市に続く4位という結果は、「環境文化都市」をめざす飯田市にとっては、とてもうれしいものです。大きな励みとなります。順位をキープするのも大変ですが、「環境首都」に近づける政策を今後も展開していきたいものです。

第1回に比べ、22 自治体の参加増ですが、今回初参加が 48 自治体というのは嬉しいものの、前回参加して今回参加しなかったのが 26 自治体あるというから驚きです。県内でも長野市が初参加、引き続き他の自治体の参加を呼びかけていきます。

「環境首都コンテスト」は、「環境市民」など全国 10 の環境 NGO のネットワークが主催して行われています。環境先進国ドイツでは、環境 NGO 「ドイツ環境支援協会」が 11 年間継続実施した「環境首都コンテスト」が、自治体の環境対策をより活性化し、ドイツ社会のエコロジー化に大きな影響を及ぼしたと言われていました。

日本の自治体の施策、先進事例を十分検討して作成された質問票に答えることにより、環境行政の弱点と課題が明らかになります。確かに多岐にわたり、ボリュームも多い質問票に答えることは、大変ですが...



<http://www.kankyoshimin.org/>

「環境市民」のホームページ

人口規模別順位・部門別表彰といっしょに飯田市から「ISO14001 自己適合宣言」と「10 年来の住民参画で実現したかざこ子ども森公園」の2つの事例を含め、32 の先進事例が特別表彰されました。



## スウェーデンのカルマル市 飯田市 環境交流セミナー

飯田市は、4月2日、市役所りんご庁舎でスウェーデンの「環境共生都市」カルマル市との「環境交流セミナー」を開き、両市の事例発表と質疑応答を通じて環境での地方都市の成功への道を探りました。カルマル市側からは、市長と環境担当調整官、スカンジナビア政府観光局職員、通訳としてNPO チェッカ・ステップ・ジャパンの高見幸子理事長、飯田市側からは、市長はじめ、研究会参加事業所や市の環境アドバイザー、環境チェッカーなど約百人が参加しました。

カルマル市は、バルト海沿岸に位置する人口約6万人の森に囲まれた中世の美しい街並みが保存されている地方都市。環境共生都市をめざすカルマル市は、持続可能な地域発展をめざす環境行動計画「アジェンダ 21」に徹底して取り組むことでエコタウンに生まれ変わりました。



カルマル市のシェル・ヘンリクソン市長は、「カルマル市は、環境面で進んでいるスウェーデンの中でもトップの自治体。バイオマス燃料など成功しているが、特に力を入れているのは水の大切さ。孫の代にきれいな水、美しい自然をどれだけ残せるかが行政の使命」「古い伝統を守ってきて、その本物の価値が評価され、

今は観光も大きく伸びている」「環境共生都市を構築するためには、産官学の連携、市民と行政の強い協働が欠かせない」と強調しました。事例発表を行ったポー・リンドホルム環境担当調整官は、「持続可能な発展は、環境だけでなく、社会・文化・経済も含まれている。長年の環境対策で汚染源はないが、現在の課題は、エネルギーを浪費せず廃棄物を出さない一人ひとりのライフスタイル」「カルマル市は、化石燃料からの転換を進め、1年間に使う燃料のうち4分の3がすでにバイオマス燃料。灯油は、厳寒期の補助用のみ」「省エネ型のエコスクールを生徒自らが運営する環境教育を進めている」「政治家への信頼性は、あらゆる文書などの公開といった透明性が確保されている。トップから末端まで意識が行き渡っているが、トップのリーダーシップ、やる気が重要」と語りました。



セミナー後、市役所を表敬訪問したカルマル市長は、「あちこちの自治体に行かせていただいたが、飯田市の進めている素晴らしい環境政策を知り、お互い学びあえと感じた。今後も、環境に関してぜひ協力関係をつくりたい」と語っていました。

このセミナーのコーディネーターをお願いした法政大学の石神隆教授は、「環境政策の源流であるスウェーデンのカルマル市と、環境政策に取り組んでいる日本の自治体で、まれな飯田市が交流できたことは素晴らしい。何かの方向性が生まれてくれれば」と期待していました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 研究会事業所代表者全体会

本日、13:30 から2時間、研究会参加事業所の代表者全体会が開かれました。この会議は、実務者で進めている研究会活動を年に2～3回、事業所のトップが集まって方向付けを確認していくというものです。また、実務者が研究会活動に参加しやすいように、理解を深めるという意味も持っています。萩本代表から研究会の「これまでの歩み」「抱える課題」「めざすもの」「体質強化のために」といった説明と、今後のあり方についての提案がされました。



研究会の28事業所のうち17事業所から23人の参加がありましたが、年度末で忙しいためか、代表者はわずか6人でした。

## 研究会の抱える課題

1997年11月、6事業所で発足し、5年半、現在28事業所。2000年7月、名称や組織を一新してから約3年、2001年10月、地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」の運用を始めて、1年半。民間主導のボランティアな「地域ぐるみ」の取り組みが注目され、「第7回計画賞」等で評価されていますが、さまざまな課題も見えてきました。

代表者の参加が少なかったことが示すように、事業所のトップもこの間に変わってきました。研究会への参加を決めた人と継続している人の意識のズレも生じています。研究会の活動は、これまでのような研究会内部や会員事業所相互のシステム構築や維持のための情報交換、地域全体の環境モードの高まりといったイメージ先行のものから、具体的で実質的に効果が上がるものへと移ることが厳しく求められています。

研究会の抱える課題は、次のようにそれぞれが絡み合っています。

- ・「飯田市」や「飯田下伊那」という地域を超えた活動が求められてきた
- ・会員事業所の参加目的や意識、規模や体制などからくる力量のバラツキ(温度差)が大きくなってきた
- ・無償そしてボランティアな性格から生じる「逃げ」「遠慮」といった弊害も目立ってきた
- ・支援を前提とした「南信州いむす21」のシステムの不備・無理と支援の限界が見えてきた
- ・研究会だけでなく広域連合という行政との関わりが利用者にとって複雑なシステムになっている

## 研究会のめざすもの

研究会のめざすものを「当面」「今後」そして「将来」とし、整理しました。

「当面」「南信州いむす21」の普及と定着を。「南信州いむす21」のシステムを構築し、発足させた責任として、そして多くの小規模・個人事業所のチャレンジに添えていくため、その普及と定着を進める活動、責任ある支援を最優先に位置づけます。例えば、数人の事業所においては困難な、ISO14001が求める教育訓練や内部監査の実施など、地域ぐるみ全体の仕組みとして研究会が、補完していきます。支援の負荷を軽減し、あくまで自発的な取り組みとするため、ISO14001規格をわかりやすい表現とした「南信州いむす21」規格を定め、項目の選択により無理なく段階的にシステムが構築でき、自らチェックできる仕組みとします。

「今後」ISO14001「自己(適合)宣言」への結集を。先駆的である飯田市役所のISO14001自己適合宣言は、市のめざす「環境文化都市」を地域の企業と一緒に進めるうえでも、大きな意味があります。どうしても事業を行ううえで認証取得が必要な事業所以外、戦略的に、ISO14001の審査登録でない自己(適合)宣言に誘導し、結集していく必要があります。

「将来」ビジネス「環境カンパニー」の創出を。この地域のISO14001認証取得事業所がサーベイランスや

更新審査などISOを維持していくために地域の外へ投入している資金を地域に還流させ、新しい環境ビジネスを創造していく必要があります。研究会をボランティアな団体から新しい環境ビジネスの事業会社へと発展・独立させていくことにより、この地域の元気につながるはずです。

「将来」といっても、実現できないような「夢」ではありませんし、いつなかもわからないようなずっと先のことでもありません。「こうしたい」「こうする」と言い続けなければ、実現しないこともきっとあります。

## 研究会の体質強化を

これまでの会員による活動と実績を大きく評価しながらも、この地域で環境改善活動をより責任を持ってさらに実質的に展開していくために、自らに厳しく、組織のあり方を早急に、事務局が中心となって見直すこととします。現在の会員にこだわらず、この地域の事業所に広く研究会への参加を呼びかけ、めざす活動理念と活動内容に賛同し、あらためて会員として参加の意思表示をした事業所により、研究会は、できるだけ早く、新たに活動をスタートさせることとなります。



NHK「その時歴史が動いた」で紹介された吉田松陰が亡くなる一年前に弟子に送った漢詩。「志を立てるためには人と異なることを畏れてはならない。世俗の意見に惑わされてもいけない。死んだ後の業苦しみを思わずらうな。また目前の安楽は一時しのぎと知れ。百年の時は一瞬にすぎない。君たちはどうかいたずらに時を過ごすことのないように」環境問題、どう仕掛けましょうか。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭

[kobayashi\\_toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## JAB 環境ISO 公開討論会

### 自己適合宣言の評価

2003年2月4日(火)10:30から17:00まで、JAB(財.日本適合性認定協会)主催の「第7回 JAB / ISO14001 公開討論会」が開かれ参加しました。テーマは、「環境 ISO 日本の特徴・将来何をすべきか・改善のポイントは」。会場の有楽町朝日ホール(東京)は、申し込みが多く、受付制限したという参加者550人でいっぱい。JAB 井須専務から EMS 最近の動き、森川部長から EMS 実施状況アンケート結果、4人30分ずつのプレゼン・ディスカッション、総括と進みました。気持ちのいい正確な時間管理の進行で緊張感漂うなか、この公開討論会に先立ち行われた12月13~14日のシンポジウムでのワーキンググループ(WG)での検討結果の報告。



プレゼンは、WG1「中小企業の課題」：筑波大学院橋広計教授、WG2「官庁・自治体でのEMSの特徴」：明治大学院大滝厚教授、WG3「企業の次なるステップは」：カクレニル岩淵勲常務、WG4「審査の現状と今後の方向」：三菱電機吉田敬史次長と各WGの主宰が担当しました。

この通信で全てを伝えることはできません、各WGのスライド1枚で紹介します。

#### WG1「中小企業の課題」

おわりに

- ・中小企業にとってのMS導入はチャンス
- EMSから入ったメーカーならばEMSで完結させない(認証の問題ではない)
- あらゆる企業の活動でMSを活用
- 審査登録を前提とする外圧的導入で二重帳簿的システムになるのは、企業にとっても制度にとっても不幸

#### WG2「官庁・自治体でのEMSの特徴」

課題

- ・既存のしくみとの調和システムが重い。自らの組織のシステムの実態に合っていない。
- ・背伸びしたシステムづくりをしている。
- ・環境コミュニケーション：情報公開
- ・トップ(首長)のコミットメントとリーダーシップ
- ・QMS 8原則の理解とへのEMSへの展開

#### WG3「企業の次なるステップは」

システムの統合

企業側の負担増	QMS	審査機関は対応できるか 統合審査 同時審査
	EMS	
	OHSMS	
	ISMS	
	・	

共通する Management Level での統合

#### WG4「審査の現状と今後の方向」

審査の改善に向けて

- ・認定審査の改善
  - 有効性審査方針の明示
- ・情報公開・交流(市場メカニズムの改善)
  - 審査機関の相互交流
  - ユーザの声のフィードバック(RB+JAB)
  - 異議申立て機関の設置
- ・計画的な審査
  - (十分な準備・適切なチーム編成)
- ・審査員の適正・能力評価の改善
- ・組織ニーズにあった審査
  - 審査のランク付け・多様なメニューの提示

今回は、JABのご配慮によりシンポジウムと公開討論会の両方に参加させていただきました。WG4では、飯田市役所の進める「自己適合宣言」にとってもメンバーの皆さんから貴重なアドバイスをいただきました。

公開討論会でも、WG2の大滝さんやWG4の吉田さんから、何度も「飯田市」の事例の紹介があり、エールをいただきました。そのたび、この「社会実験」の責任の大きさを痛感し、ひとつのモデルとするための決意をあらたにしたところです。

WG4の吉田さんの「自己宣言の評価」と、全体のコーディネーターを務められた筑波大学院の吉澤正教授の総括のスライドを紹介します。

自己宣言の評価

- ・多様な背景・目的(一律には論じられない)
- ・自己宣言の意味の認識
  - 第三者認証の意味、ISOの意味
- ・自己宣言と第三者認証は競合するか?
- ・社会実験としての期待
- ・自己責任の認識
  - 信頼性確保の手立て、基準(ルール)
- ・自己責任の制度的な確立?
- ・社会的な誤解の防止(正しい説明責任)
  - ISOの要求事項と違う場合はISOといわない

吉澤正教授の総括から

環境ISOのレベルアップ

- ・要求事項は、ISO14001にある
- ・マネジメント要素(モデル)のレベル向上
- トップのコミットメント・リーダーシップ
- 環境教育
- 日常管理・環境改善・継続的改善
- 環境適合設計、サプライチェーン指向
- 最良技術利用・技術開発、情報(技術)利用
- グリーン調達、その他

## 多摩川精機 相互内部監査

2月5日(水)13:00から17:00までの4時間、研究会の萩本範文代表の会社、多摩川精機㈱で研究会による「相互環境内部監査」が行われました。今回監査を受けるたのは、多摩川精機㈱のISO事務局、環境管理責任者と室長、監査は、研究会メンバーだけ、盟和産業・平和時計製作所・パチンコダイエーグループ・飯田市役所(2人)の実務者5人でした。



吉澤正先生から「ぐるみ通信、楽しく読ませていただいていますよ。悩みながらも、一方的に送りつけている、このメールですが、そんな一言がほんとうに嬉しいですね。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 飯田市役所環境ISO 自己適合宣言へ移行

2003.1.23、17:00 から飯田市役所のISO14001の審査登録から自己適合宣言への移行式が行われました。前夜から積もった大雪にもかかわらず、職員以外に地域の仲間の皆さんから40人も含め、300人が参加。1部の移行式、2部の寺部哲央 JAB 技術担当部長と田中充法政大教授の講演。田中秀典飯田市長のあいさつ、長いですが全を、ぐるみ通信 29 ととして載せました。(環境方針は飯田市のホームページにあります。)

### 自己適合宣言への移行宣言

本日、2003年1月23日、  
飯田市役所は、ISO14001の  
審査登録から自己適合宣言へ  
移行することを、宣言します。



### 2000年1月26日認証取得

今から3年前の2000年1月26日、飯田市役所は、第三者機関による審査という大きな緊張感の中、長野県内の自治体では初めて、環境マネジメントシステムの国際基準ISO14001の認証取得をし、ずいぶん注目されました。ISO14001の取り組み宣言をしたのが1998年7月、コンサルタントによらず職員みずからシステムを構築し、その運用を開始したのが1999年9月のことでした。

### 登録有効期限、自己適合宣言へ

早いもので、あの認証取得から丸3年、この1月25日に3年間の「登録有効期限」を迎えることになりま

した。一般的には、更新審査を受け審査登録を継続していくのが普通の方法なのですが、私たちは、敢えて「自己適合宣言」という厳しい選択をいたしました。

この審査登録ではない、自己適合宣言という選択の意義を、4年半前の取り組み宣言の時点にさかのぼって考えてみる必要があります。

### 4年半前の取り組み宣言

私たちは、決して環境ISOの認証取得や、運用そのものが目的で取り組もうとしたのではなかったはず。飯田市というこの自然豊かな地域が活性化され、より元気になるためには、まず、飯田市役所という組織、そしてそこに働く職員がもっと元気になるなければならない。

ISO14001というマネジメントシステムを、そのツールにしたい、と考えたわけです。

### 厳しい自己適合宣言への挑戦

システムの運用から3年余、多くのノウハウを組織の中に吸収し、蓄えることができました。しかし、これまでのISOの取り組みが、もう審査機関からのチェックを受けなくても十分だとは考えていません。

部分的には進んでいる点もあるでしょうが、まだまだ、取り組みが不十分、不完全だからこそ、もっと厳しい自己適合宣言への挑戦を選択したわけです。言うまでもなく、飯田市役所の自己適合宣言は、決してシステムそのものや審査登録制度を否定しようとするものではありません。

### ひとつの結果が自己適合宣言

認証取得や、ISOの運用そのものが目的ではなかったと同様に、今回の自己適合宣言そのものが目的ではありません。ましてや話題性や奇抜性だけの挑戦ではありません。

決して、最初に自己適合宣言ありきでなく、私たちのこれまでの、さまざまな取り組みが、結果として自己適合宣言となりました。

緊張感あるものとするために、内部監査員の自立を図ったり、監査チームに組織外の内部監査員を加えたり、地域の民間企業や県内自治体と、相互に内部監査を行うことを始めました。

たとえば、内部監査については、より充実した、本庁舎以外の機関や地域に独自のシステムを構築し運用したり、担当職員に審査員の資格を取得させたりと、これまでもシステム改善に工夫を重ねてきました。

### 初めての改正、新しい環境方針

1999年9月に定めた環境方針を、今回の自己適合宣言への移行に当たって、初めて改正しました。新しい環境方針も、「飯田市役所」の環境方針となっていますが、内容は市役所という一事業所だけではなく、飯田市政全般に踏み込むよう意識したものとなっています。

新しい環境方針には、「ムトス」や「いいむす 21」、そして「地域ぐるみ」などという「飯田らしい」キーワードを多く盛り込みました。

自己適合宣言や「いいむす 21」の考え方の基本となっている、飯田市のまちづくりの原点「ムトス」の精神を、もう一度職員一人ひとりが確認する必要があると考えました。「ムトス」とは、自分たちのことは自分たちでしようとする自律的であり、主体的な考え方です。

### すべての職場と職員の環境方針

そして、何よりも変わったのは、ISO14001だけの環境方針ではなく、本庁舎以外の機関で展開している「いいむす 21」と共通の環境方針として、位置づけたことです。飯田市役所のすべての職場とすべての職員で取り組む環境方針としました。

もちろん、方針に掲げた内容と現時点での取り組みには、若干の隔たりはありますが、この環境方針の「基本理念」「基本方針」に向かって、チャレンジすることを基本的な姿勢としました。

## 自己適合宣言を 大きなうねりに

### コミュニケーションと環境学習

新しい環境方針には、コミュニケーションの活性化と、あらゆる場面での環境学習を掲げてあります。職員の教育訓練はもとより、保育園や幼稚園、小学校・中学校におけるものから、高校生を含めた社会人まで、「あらゆる場面での環境学習」を進めていこうとするものです。

市民のみなさんや事業者と協働して「環境文化都市」の実現を一層進める上で、「情報公開」や積極的な「情報提供」は、コミュニケーションの活性化のための、大きな要素となっています。また、自己適合宣言の信頼性からも、情報提供による運用システムの透明性の確保は大前提であると考えています。

### ホームページでの情報提供

明日には飯田市のホームページで、私たちのISOに取り組む情報提供を行うことにしています。環境マニュアルはもちろん、たとえば、電気使用量がどれだけ削減されたのかとか、市民から出されるごみのリサイクルがどれだけ進んでいるのか、そして、公共工事の環境配慮はどうなっているのか、などの情報提供をいたします。また、昨年秋、民間企業や県内自治体など、外部の人たちも参加して実施した内部監査の結果もホームページに載せていきます。

それにより、審査機関のプロの審査員やコンサルタントの方はもちろん、全国の人たちが私たちのシステムやその運用状況を、厳しい目でチェックしてくれるはず。ホームページは、ISOに直接関わらない人たちも見ることになりますので、わかりやすい情報提供に心がけなければなりませんと考えています。

一人ひとりのツールとして

職員の一人ひとりがこのISO14001を自分のマネジメントツールとしていくことが求められています。Plan-Do-Check-ActionというPDCAサイクルによる継続的改善の考え方を、いかに自分の業務に活かしていけるかということです。

### 地域での大きな「うねり」に

私たちは、認証取得そして維持運用によって、PDCAサイクルや継続的改善というISO14001のマネジメントシステムとしての素晴らしさを知ることができました。経営ツールとしても効果的な、その考え方を、この地域をはじめ、もっと広くPRし、展開したいと考えています。

しかし飯田市役所がひとり「審査登録」から「自己適合宣言」に移行したとしても、それだけでは組織の内部のことで終わってしまいます。飯田市役所が先がけて「自己適合宣言」をすることにより、この地域において、事業所の自発的な挑戦が続き、大きな「うねり」となることを期待します。

地球温暖化の防止など地球環境問題への取り組みは、それをいかにみんなの問題とし、その取り組みの裾野を拡げていくか、ということが大切です。温室効果ガスの削減という京都議定書の発効を目前にして、行政とりわけ市民に近い地方自治体の役割はますます大きくなっています。

### 地域に合った身の丈のシステムを

ISO14001の普及にも当然努めていきますが、この地域には、規模の小さな事業所や町村が多いことから、国際規格でなくても、同じ効果が得られる地域独自の環境マネジメントシステムが、どうしても必要だといえます。

そこで、この地域で展開しています「南信州いもむす21」を、さらに地域から受け入れられる、この地域に合った、身の丈のシステムにしていかなければなりません。私たちは、「ムトス」の精神で、主体的に自分た

ちが責任を持って広く普及するよう強い決意を込めて、自己適合宣言を行い、その中に飛び込んだわけです。

### 行政を変える、大きな一歩に

飯田市の自己適合宣言への移行は、多分、全国の自治体で最初の事例であると思われますだけに、民間企業も含め、全国から予想以上の反響があり、注目されています。

私たちは、この2003年1月23日をISO14001の「審査登録」から「自己適合宣言」に移行した日だけにとどまらず、また、環境だけではなく、私たちの行政のあり方そのものを変える、大きな一歩を踏み出した日として位置づけたいと思います。

飯田市役所の「自己適合宣言の運用」は、今日がスタートです。1月23日、まさに「ワン」「ツー」「スリー」と前進していくこの日を、今後も緊張感を持って、自らの取り組みを検証する重要な機会としていきます。

「環境文化都市をめざす都市像」とする飯田市10万市民の、そして17万人が生活を営む南信州地域での、環境改善運動の大いなる実験です。私たちの取り組みがひとつのモデルとなり、この地域が一層元気になるよう、今日から気持ちを新たに、職員一人ひとりがチャレンジする積極的な心を持って取り組んで行くことをお願いし、自己適合宣言移行にあたってのあいさつとします。



飯田工業高校の生徒、審査機関やコンサル、遠い自治体からの参加もありました。外部による検証システムをどう構築するか…。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林梅昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 今年もよろしく お願いします



萩本範文 研究会代表  
多摩川精機株式会社代表取締役社長

「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」の名で1997年の11月に市役所も含め6事業所でスタートした当研究会も5年余、現在29事業所の組織となりました。この間、事業所の中だけではない「ぐるみ運動」で地域の「環境」をボランティアに仕掛けてきたところです。その取り組みは、日本計画行政学会の「計画賞」はじめ一定の評価はされているものの、単なるお互いのミーティングで終わってしまっているのではないだろうかという心配があります。研究会29事業所、「南信州いいむす21」という地域独自の環境改善活動には80近い事業所が取組宣言をしています。こうしたバックグラウンドを考えると、今は無報酬、無出資の研究会活動にとどまらない何らかのビジネスが生まれてきてもいいのではないのでしょうか。いや、生まれるように何らかのことをすべきです。

## 「環境づくり カンパニー」

ビジネス、いろいろなことが考えられます。たとえば、エコタウンの環境産業公園に近くできるインキュベーションセンターに環境検査や環境コンサルタントといった機能のものを入れることはできないでしょうか。きっと、それはさらに進んだ「ぐるみ運動」のパワーとなることでしょう。そ

れをある面で限界のあるNPOではなく、純粋なビジネス、産業が生まれてくるきっかけとしていきたいものです。一気に難しいとしたら、この研究会がその前段として、その役割を担い得るものに形をかえ、発展していく時期に来ていると考えます。

環境に興味を持っている人も大事ですが、もう少しビジネスセンスを持っている人を核とし、地域の活性化につなげることが求められています。地域のコンサルタントも巻き込み、先ずは頭を作って、スタッフをそろえていく。そして、何より、お金をとれるビジネスをつくっていくことです。

飯田市では再開発ビルの建設など中心市街地再開発に「まちづくりカンパニー」ができ機能しています。これになって「環境づくりカンパニー」のようなものができるのでしょうか。「ぐるみ運動」をベースにすれば、十分カンパニーにもっていけるはずです。

## 市役所のISO自己 宣言をチャンスに

飯田市役所のISO14001自己宣言への挑戦も、長い準備期間を経て、いよいよ23日に移行式を迎えます。これはとても面白いビジネスポイントです。地域での「南信州いいむす21」をより権威づけるためにISO審査登録からの乗り換えをおこなうわけです。逆に言うと、かなりシビアな公的立場・第三者立場で他の取り組みをサポートできる体制ができるということです。この地域から資金流出しているものを何とかこの谷に還元していく。第三者審査機関の認証をみずから取って切った削減した審査費用は、今後、環境支援の継続的な費用として地域で活用していくべきでしょう。

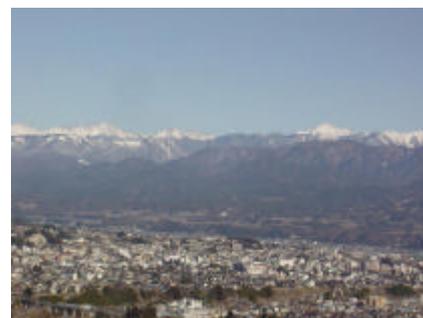
## 「自己宣言」から 「南信州宣言」へ

この市役所の自己宣言を契機に、この地域で環境ISOを自己宣言でやっていくという取り組みをひろげたい

ものです。運用していく環境マネジメントシステムを自分たちでレベルの高いスタンダードとして「南信州いいむす21」を作り上げていかなければなりません。単なるISO14001の「自己宣言」ではなく、言うなれば「南信州宣言」として、この地域のISO14001を全て集約していく。自分たちは、もう自分たちでできるとなれば、これは、創造するだけでも楽しい、すごい元氣、パワーになっていくはずですよ。

## 研究会も発展的に

今まで研究会が続けてきたノーマネーの活動に限界も見え始めています。「南信州いいむす21」の取り組み事業所も今後ますます増え、責任ある対応も難しくなってくることでしょう。小さい活動の時は小さいエネルギーでコントロールできたのですが、活動が大きくなってくると、それなりのことを用意しなければなりません。同じエネルギーを使っても、結果が、うすくなっていってしまいます。



2003年、研究会は、これまでの延長ではなく、発展型として大胆に具体的なことを仕掛ける年にしたいと考えます。研究会の「環境改善の地域文化を創造する」という理念は大切しながらも、この研究会も大きく動き、様変わりすることになりそうです。この素晴らしい自然を守っていくは当然ですが、そこに住む私たちが、生き生きと元気で暮らしていけるための取り組みを一緒にしていきましょう。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 桐林クリーンセンター 新焼却施設を見学



(旧施設の右となり新焼却施設)

12月25日、地域ぐるみ環境ISO研究会として南信州広域連合の桐林クリーンセンター新焼却施設を見学しました。12月6日の実務者全体報告会で決定し、暮れも押し迫ったこの日、25人の参加がありました。南信州広域連合の伊東克彦調整幹から約30分の経緯と施設の説明を受け、質疑応答の後、実際の施設を見学しました。



## 93t ガス化溶融炉

処理地域は、飯田下伊那の17市町村(すでに設楽郡とごみ行政を実施済みの根羽村を除く)に広がります。処理能力は日量120トンから93トンへと逆に縮小されます。これは、ごみの削減と分別リサイクルを進め、どうしても燃やさなくてはならないごみの量を推計した結果の適正量です。

大きすぎる施設をつくり、ごみの確保ができず、助燃剤を使ったり炉を休止している自治体も少なくないそうです。しかし、13年度のごみ収集量は25,900トン、2つの炉をフル稼働しての処理能力は26,040トン。ごみで出すのではなく資源に回して、一層の循環型社会を広域的に進めていく必要があります。



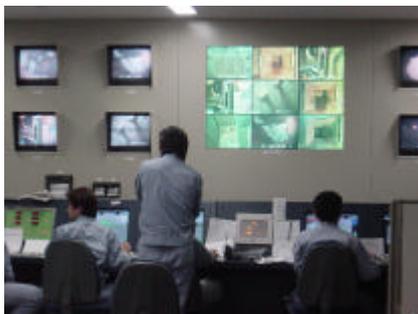
## 0.0042ナグラム

12月2日の火入れ式から稼働しました流動式ガス化溶融炉は、ダイオキシン類の発生を国の基準よりもさらに厳しい独自の基準で運営していきます。試運転の測定結果は次のとおり。

排煙中のダイオキシン類	
	0.0042ナノグラム
地元との協定値	0.05 ナノグラム
法基準値	5.0 ナノグラム
新施設指針値	0.1 ナノグラム
旧施設測定値	6.2 ナノグラム

「ナノグラム」= 10億分の1グラム

「ガス化」「溶融」という新しい技術の施設。山形県の酒田市などの組合に続いて荏原製作所では2号炉になります。「ガス化炉」では、炉の底に入っている砂がごみを攪拌し、蒸し焼きにしガスにします。「溶融炉」では、ガスを約1300℃で燃焼させて灰分を溶かし、ガラス粒のスラグにします。これまでの炉に比べ、残る灰の70%がスラグとなり、路盤材などへの活用について地元企業と試験研究しています。



事業費は、本体の48億3000万円に造成1億7000万円などを加え約50億円。施設の周辺を整備し、12月の本格的なごみの受け入れにより安全で安定した操業が常に継続してできることを確認したうえで、施設の引き渡しを受けることになっています。

## 余熱利用で発電も

24時間稼働のボイラーからは高温の燃焼排ガスから熱を回収し、隣接する「サンヒルズいいた」(温水プール)へ送ったり、蒸気タービンにより発電され施設の一部で利用されています。

ダイオキシン類の除去をして古い施設を解体するのに、プラント施設だけでなく数億円かかるそうです。平成元年に建設された建物は、環境学習や交流の場としての効果的な利用も検討されています。

## 分別と資源化を



新施設の稼働の12月から家庭や事業所での焼却炉の規制も強化され、ごみの排出量の増加が予想されます。ごみの内訳は、紙が40%程度で最も多く、次に多いのが生ごみで38%、続いて草木、衣類です。森林組合による枝葉や丸太や根株の受け入れによる堆肥化も始まりました。各分野でのより一層の分別と資源化が急がれます。

生ごみを運ぶパッカー車には少なくともバケツ3杯、多くて5~6杯の水分がたまるそうです。飯田市の一部地域で11月1日から始まりました家庭生ごみの分別回収による堆肥化、従来の生ごみ処理器の購入補助など総合的な施策による減量化が必要です。

この通信では、研究会の活動や飯田市などこの地域の取り組みを紹介しています。ピットにごみとして出された大量の紙を見るとがっかりもします。研究会の仲間と地域ぐるみで、この地域の環境のレベルを上げていく挑戦、来年も続きます。よいお年を。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 研究会実務者全体 報告会が開かれました

12月6日(金)15:00～17:30、29のうち19事業所が集まり、市役所で研究会の実務者全体報告会が開かれました。11月に研究会の新しい仲間に加わりました南信共同アスコン(株)から、「南信州いむす21」を一緒にすすめ、今回から会議に参加してもらうことになりました南信州広域連合から、あいさつを受けました。



研究会などを卒論テーマとしている法政大学大学院の寒田さんも同席。つづいて、環境法規制の情報収集への対応のひとつの手法として「エコブレイン」という製品の説明を受けました。環境に関する法律に変更や改正があった時、変更点がよくわからない等の悩みを聞きます。事業所毎に対象となる法規制も異なりますが、果たして該当するかどうか難しく、研究会として説明会・勉強会を計画していくことになりました。

## さくげん分科会



前回の9月27日からの全体の経過説明の後、3つの分科会からの報告。情報交換をしながら、共通で取り組める活動を模索している「さくげん分科会」。業種や削減したい対象物(廃プラ、建築廃材など)がさまざま共通の活動が難しく、その中で地域循環をめざした新聞古紙の回収について2社で試行を進めてきました。問題のある分別基準を見直し、研究会全体で展開することになっています。

## いむす分科会

この地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」の現時点での取り組み状況は、次のとおり。

取り組み宣言書提出	77事業所 (13年度35事業所、14年度42事業所)
うち認証登録	7事業所
うち取り組み卒業	2事業所
うち取り組み辞退	1事業所

11月19日付けで飯田広域消防本部(飯田部会)の全部署が、12月2日付けで特別養護老人ホーム飯田荘・第二飯田荘・阿智荘・喬木荘が、取組宣言しました。10月1日付けで広域連合事務局が宣言してから、行政への取り組みが広がっています。行政への支援などの問題、分科会を中心に、支援グループ、支援方法についての見直しを行うこととなりました。

取組事業所のうち青年会議所を中心としたアンケートの結果、4事業所のみ取り組みが進んでいますが、多くの事業所で停滞しています。多摩川清掃協同組合関連の30事業所は、グループをつくり、お互いの活動をフォローしているので、研究会の積極的な支援は当面必要ないようです。業種に配慮しない単純な振り分けによる支援グループではアドバイスがしにくい、取り組みが停滞している事業所への執拗なフォローは疑問、小売業等の個人事業所へのアドバイスの仕方は再考の余地があるなど、取組事業所への支援には、あいかわらず大きな悩みがあります。

## ひろめる分科会

ぐるみ通信の発行を通じて、研究会の活動を情報発信するだけでなく、研究会参加事業所の連携をはかるのも大きな仕事。「生活と環境まつり」でのどんぐりの取り組み、相互内部環境監査も進めています。長野市のビッグハットで7月19日・20日に開かれます「信州環境フェア2003」にも、昨年、今年に引き続き参加する予定です。

10月29日～11月25日に実施された飯田市役所の相互内部環境監査には研究会からの20人も含め延べ71人の参加があり、次のような感想がありました。監査を受けた市役所、監査に参加した事業所お互いにメリッ

トがあった。文書はかなり細かくできているので今後はスリム化が課題ではないか。出先での独自のEMSを含めサイトを広くとらえていく必要がある。研究会の事業所も監査員を派遣するばかりでなく、相互内部環境監査の受け入れを進め、研究会のレベルアップのため、この取り組みを定着させたい。

## 次回は、新焼却場見学

ダイオキシン類の国の基準を大幅にクリアした南信州広域連合の桐林クリーンセンター新焼却場がこの12月1日から稼働しました。焼却炉は、最新技術を取り入れたガス化溶融炉で、県内初の施設です。根羽村を除く南信州広域連合内の17市町村の焼却ゴミが処分されます。事業所の焼却ゴミの減量も求められており、研究会として12月25日に施設見学します。

昨年行った研究会全体の二酸化炭素排出量の実態調査を今年も実施することになり、研究会全体(5,302人)での8,215kg-CO<sub>2</sub>/人の数値を引き下げようとする取り組みを目指していきます。長野県環境保全協会飯田支部36%の回収率のアンケート結果、「知っている」と「やっている」とはやはり別。研究会では、同支部が行う各事業所に届くカレンダー・手帳で不要となったものを集め、市民に配布する活動に協力することになりました。



6日の実務者会議の後は懇親会が開かれ15人が参加。もちろん研究会、決して難しいことばかりやっているわけではありません。前例のない手探りの実験、苦労や悩みもありますが、楽しくなければ長続きできません。地域のいろんな仲間との交流は実に楽しいものですが、地域の外の皆さんからの声も研究会には必要です。暖かい飯田も昨夜からの雪ですっかり雪国。お身体お大事に。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林梅昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 飯田市役所での 「相互内部監査」

10月29日から始まった飯田市役所の環境内部監査が11月25日に終わりました。互いに内部監査を受け入れたり、出向いたりという「相互内部監査」は、「地域ぐるみ環境ISO研究会」の参加事業所相互で昨年、始まりました。ふつうの部門の内部監査と違って、専門的な知識が必要となるISO事務局のそれに、研究会でも、とりわけ、その効果が期待されていました。今年は、「長野県環境ISO自治体ネットワーク」としても、「相互内部監査」が進められてきました。



相互内部監査は、民間に比べ、比較的受け入れやすい行政である飯田市役所が「実験」の意味も込めて、率先して行っています。昨年は、飯田市役所全30課のうち延べ7課に7人を受け入れました。また、審査機関の審査前の糺アース・グリーン・マネジメントの事務局の内部監査を市役所職員2人が行いました。今年は、すでに上田市役所や長野市役所がISO事務局を中心に「相互内部監査」を行ってきました。

## 2年目の今年は、

### 23課に71人を受入れ

組織内の職員以外を内部監査員として受け入れる「相互内部監査」。2年目の飯田市役所の環境内部監査は、全30課のうち23課が「相互内部監査」となりました。約1月におよぶ飯田市役所の「相互内部監査」には、延べ49の組織の参加がありました。49組織の内訳は、研究会20、長野県内

の自治体20、残りは飯田商工会議所や飯田工業高校などです。参加人数は、延べ71人、うち研究会は20人、自治体41人、その他10人でした。



これだけの相互内部監査ができたのは、研究会やネットワーク、「南信州いむす21」取組事業所の協力があつたことは言うまでもありません。と同時に、内部監査員が計画やチェックリスト作成など比較的自立しており、ISO事務局が内よりも外との日程調整に集中できたこともあります。

さらに、建設部には建設会社が、市民課にはサービス業の事業所が、環境保全課には環境関連産業などそれぞれ専門性が発揮できる課への参加があつたことは効果的でした。

## 事務局はシステム監査

ISO事務局の内部監査は、11月13日の午後に行われました。環境管理責任者(水道環境部長)と環境保全課長にISO推進係1人がつき、2班に分かれて、それぞれ2人の内部監査員(課長職)から運用システムについて監査を受けました。研究会事業所のほかに長野県・長野市・松本市・上田市計10人の参加を得ました。



単純に参加数が多ければいいというものではないにしろ、多くの参加は多くの視点です。こうした内部監査を通して、する側も、される側も他から

学ぶことにより、足りないものを補っていけば、研究会全体、地域全体、県全体のレベルアップに必ずつながるものと考えます。研究会で、県内の自治体で今後いかにそれぞれの組織でこの「相互内部監査」を効果的に活かすことができるかが課題です。



いずれにしても問題は、職員が職員に対して行う基本となる内部監査のレベルです。外部の人たちも、事前に配布されたマニュアルをチェックし、課題を整理して内部監査に参加し、問題点を指摘しました。そうした真剣な参加により内部監査の場に生まれた緊張感は相当なものでした。



今年も多くの出会いがあり、この通信の配信先もずいぶん増えました。しかし、通信24から1月、伝えたいことの何分の1しか発信できていません。この通信は、研究会自身へのプレッシャーそのものです。通信25は、「相互内部監査」だけの内容ですが、報告しなければならぬ「南信州いむす21」の取り組みだけでもかなりボリュームがあります。今年もあと1月、12月6日には研究会の実務者全体報告会が開かれ、多くの課題について年最後の詰めをすることになっています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭

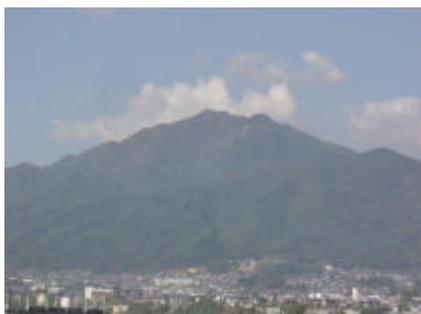
[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## どんぐり、その後

地域ぐるみ環境ISO研究会の仲間が拾い集めた約3万個の大きささまざまな「どんぐり」。今日までに全てあちこちに旅立っていきました。「かざこし子どもの森公園」「環境産業公園」「下伊那農業高校」「飯田工業高校」「環境センター」など。急な無理なお願ひにかかわらず話を聞いていただき、ご協力いただいた皆さんに心から感謝申し上げます。多くの仲間たちの手によって集められた「どんぐり」ゆえに旅立ちにもほんとうにさまざまドラマがありました。根とともに元気な虫が出てきていますが、中には大きな木に育ってくれるものもあるはず…。



どんぐりを植え育てる夢にご協力いただきました皆さん、ほんとうにありがとうございました。「かざこし子どもの森公園」は、飯田市にこししの4月オープンしたばかりの公園。大人にはかつての原体験を思い返させ、子どもたちにとっては新たな原体験を実感できる場「原体験の森」とすることでさまざまな「感動と発見」と出会う公園、それがテーマとなっています。公園の管理は、「南信州いもむす21」にも取り組んでいる(財)野外活動センターです。(かざこしやま)



「環境産業公園」は、飯田市エコタウンプランの天竜峡エコバレープロジェクトの事業。リサイクル関連研究開発型企業の創造・育成、

環境学習の空間です。現在、(株)アグリンマジメ、コピア飯田(株)、(株)開発技研、(有)赤羽製作所の4企業が立地しています。(有)南信チップセンターから発酵したバーク(木の皮)を無償で提供していただき、どんぐりを植える立派な圃場の準備ができあがりしました。環境産業公園内のこれらの企業でどんなどんぐりの木が育つかとても楽しみです。

(株)開発技研へのバーク搬入



どんぐり育成の申し入れがありました「下伊那農業高校」は、実業高校としてこの地域の農業を常にリードし、特色ある取り組みをしてきました。いち早くISOの取り組みを始めている飯田工業高校と連携して形式的ではない生徒中心の環境改善の取り組みがこの地域で拡がることのできたら、大人ももっと本気にならざるを得ないでしょうね。

下伊那農業高校、遠くにりんご畑も



南信州広域連合の「環境センター」は、12月稼働にむけ「桐林クリーンセンター新焼却場」を建設しています。この焼却場のまわりにどんぐりと、別の場所で苗を育てることになりました。

## 「相互内部監査」

飯田市役所の環境内部監査が10月29日から11月25日まで行われます。昨年からの研究会参加事業所の実務者や内部監査員が飯田市役所の内部監査に参加し指摘・助言をすることで、

お互いのシステム改善に役立ててきました。あくまでも内部監査、それを「相互内部監査」と名づけ、お互いに受け入れたり、出向いたりすることにし、その輪を広げています。

この相互内部監査は、お互いの内部監査能力の向上や運用しているシステムのレベルアップをめざすものです。また、飯田市役所が進めていますISO「自己適合宣言」の透明性の確保としても大きな位置づけとしています。飯田市役所全30課の今年の内部監査、最初のピークが来週あります。現時点では、来週、内部監査が行われます11課のうち9課に外部の人が参加することになっています。

飯田市役所では、今年は、研究会だけでなく、県内のISO認証取得済みの自治体とも相互内部監査を行っています。また、ISOや地域独自のEMS「南信州いもむす21」のシステム構築を進めている事業所にも「見学・研修」という意味での参加も呼びかけています。皆さんもぜひ参加を。

8月 長野市役所での相互内部監査



オープンにして外部から職員以外を受け入れる、内部監査当事者にはそれだけかなりのプレッシャーがかかります。しかし、そうした緊張感の中で相互内部監査を進め、レベルアップを図りたいと考えています。

あれだけあった「どんぐり」が全て土の中へ行くことができるまでできました。正直ホッとしています。虫が食っていても、割れてしまっても、最後にはどんぐりは「たから」のように思えてきました。週末、もう一度、山に入ってどんぐりを拾いに行こう、そして自分の家でも育ててみよう…。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林梅昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## どんぐりと研究会

「生活と環境まつり2002」

10/19 ~ 20 飯田市県体育館



研究会としてイベントに出展参加してきたのは長野県などで行う「信州環境フェア」と地元の飯田市などで行う「生活と環境まつり」。活動紹介だけでなく何かもう少し楽しいことができないうかが「ひろめる分科会」で考えたのが「どんぐり」でした。研究会のみんながどんぐりを拾い、堆肥もつけ、来場者に配って、苗に育ててもらおう、という単純な思いつきです。

これまでイベントでは研究会全体の活動や個々の事業所の取り組みを紹介してきました。環境方針や環境報告書のペーパーでは見えてくれないので立体的な製品などにこだわってきました。しかしこれも限界。堆肥は研究会の精原鉄の製品、生ごみ処理機によるもの、入れ物のカップは精原鉄の生みそずいの返品等といういろいろな企業の集まりゆえにできる思いつきの実行です。

研究会参加の28事業所に各200個のどんぐりをお願いしたところ、約3万個の大きささまざまなどんぐりが集まりました。研究会全体で従業員7千人という数の大きさを思い知らされました。この地域の自然の豊かさを感じました。そして、私たちはこの身近などんぐりについてほとんど何も知らなかったことに気づかされました。イベント2日間で配ったのはわずか。このどんぐりをどうするか。研究会として悩みながら育てることにします。とりあえず苗木に、そして「どんぐり」の取り組みそのものも、各地での進んだ取り組みに学び、連携をとりながら進めていくつもりです。

地元だけでなく、あちこちのどんぐりが集まりました。遠くは研究会萩本代表が多摩川精機八戸工場から持ち帰ったもの。旅行先の金沢兼六園からのものも。たいいていは研究会参加の実務者がひとりで拾ったものですが、多摩川精機は従業員全員の活動として1人2個以上としたからすごい。近くの公園や里山でさがすとありそうな所に意外になく、こんなところという所にあたりました。きのこも同じくらい採れたという人も。体育の日あたりの連休は多くの人たちがどんぐりをきっかけに近くの山で子どもたちといっしょに自然を感じたことでしょう。



## 松川町役場での「いいむす」

この地域にある17町村で最初に「南信州いいむす21」の取組宣言書が提出されたのが松川町役場。10月18日、勤務終了後の1時間、全員でも60人という役場だけでなく保育士や関連する社会福祉協議会や「南信州いいむす21」取組中の特養松川荘のみなさんを含め90人余が参加して環境勉強会が開かれました。飯田市役所の小林ISO推進係から「環境」を身近なこととしてとらえるきっかけとする問題提起でした。取り組みを始めました南信州広域連合の事務局と連携して、他の町村に波及する先導的な取り組みに期待できそうです。



今回の勉強会は、11月に全庁で取り組みを開始する前の意識づけだそうです。ただ参加者数からわかるように、推進プロジェクトチームのメンバーの呼びかけなど前向きさと誠実さが伝わってきました。プロジェクトによる「P D C A通信」も発行され、「紙・ゴミ部会」「電気・燃料部会」が中心にルールマニュアルを現在作っているとのこと。

## 月刊「アイソス」が取材

システム規格社の藤波重昭さんが10月15日～16日、飯田へ取材に見えられました。メインは飯田市役所の「環境ISO自己適合宣言」の取り組みでしたが、その関連で研究会の活動と「南信州いいむす21」が取材を受けました。16日には、ISO14001へのステップとして「南信州いいむす21」に取り組んでいる飯田工業高校の生徒会長と校長から話を聞きました。

文化祭あの暑い体育館での派手なキックオフから1月半。風力発電機はプロペラの羽根が改良され体育館に移っていました。委員会によるごみ分別の徹底など地道な活動も続き、マニュアルも7割ほどできあがっているといえます。生徒会中心の試みが注目され、プレッシャーがよいエンジンになっているようです。工業高校らしい楽しい取り組みが継続していく鍵となりそうです。



昨夜から降り続いた雨がさきほど上がりました。この雨でどんぐりを育てている山の紅葉も一気に進み、きのこの菌も活発に動いていることでしょう。「環境」に関連した視察、大歓迎、お待ちしております。山々が輝く季節、私たちのこの谷へ、飯田へおいでください。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林梅昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「南信州いいむす21」

### 取組宣言10/1に31件

多摩川精機協組29社

そして、広域事務局・町村会事務局



10月2日多摩川精機協同組合と29事業所から「南信州いいむす21」の取組宣言書が提出されました。萩本範文研究会代表者(多摩川精機(株)社長)へ後藤吉見協同組合長から手渡されました。各事業所の宣言書の日付はまちまちですが、組合と29事業所が3から5の事業所、AからGの7グループに分かれ、グループ長のリーダーシップのもと取り組んでいくこととなります。各グループごとに成果にむすびつくようテーマを決め相互内部監査や発表会も予定しています。

多摩川精機協同組合と29事業所はつぎのとおり。(株)北・(株)カワ(有)愛光電子・(有)赤羽製作所・(有)伊那電機製作所・飯田精密(株)・(株)ヌーイ・(有)大蔵製作所・(有)太田電工・(有)大島電子・(株)協電社・(株)三和精機・(有)トキ・精機・山京インテック(株)・(有)ガノ京信・(有)野中製作所・林精機製作所・(株)丸宝計器・(有)森脇精機・(株)田代・(有)アイズ精工・ムテツ(株)・田中精機(株)・(有)浜島精機・テイクエレクトロニクス(有)・(有)三笠エンジニアリング・(株)タミヤマクワップ(株)ムキスト(有)

10月1日には南信州広域連合事務局と町村会事務局から研究会に提出がありました。昨年の10月1日にスタートさせたこの飯田下伊那地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」、取組宣言書の提出事業所数は、合計で71となりました。これまではシステムのPRにいそがしくイメージが先行した感があります。1年がたち、これからはテーマやターゲットをしばり込んでいく必要があ

ります。システムそのものの改善と研究会に何が求められ研究会としてどんな支援ができるかが課題です。

### 研究会の実務者全体報告会



「さくげん」「いいむす」「ひろめる」3つの分科会の活動を研究会全体で確認し合う「実務者全体報告会」が工場見学を兼ね9月27日開かれました。会場は「飯田TDK(株)」。98年7月のISO14001認証取得は「三菱電機(株)中津川製作所飯田工場」に次いで早く、徹底された取り組みは、参加実務者にとってずいぶん参考になりました。



それぞれの分科会から報告を受けるため2月に1回ほど開いている「実務者全体報告会」です。月に1回というペースの分科会ですが、5つから新しく3つへ変わり、で課題を整理し、具体的な取り組みを決めようとしている段階です。「さくげん」は、研究会としてのスケールメリットが出る取り組みの絞り込み。「いいむす」は、「南信州いいむす」支援アンケートの回収率の低い実態から、どのような支援がいちばんいいのかの検討。「ひろめる」は「生活と環境まつり」や「相互内部監査」への各事業所の参加とりまとめなど。

### あいつぐ視察そして取材

こうした「ぐるみ通信」による情報発信の効果もあるのでしょうか。外でのいろいろな会議で事例発表の機会

をいただくようになりました。また「地域ぐるみ環境ISO研究会」や「南信州いいむす21」が注目され、秋という季節も手伝ってか、視察や調査や取材に多く飯田に来ていただいています。情報発信に恥じない活動をつづけていかなければなりません。



高知短期大学によるパチンコダイエーグループのISO14001取得の調査。

### ホームページが新しく

<http://www.city.iida.nagano.jp/kanryo/iso/index.html>

飯田市の公式ホームページの「環境情報」にあります研究会のホームページが新しくなりました。まだ、直している途中ですが、「南信州いいむす21」のしくみやこの「ぐるみ通信」のバックナンバーも用意しました。

あいかわらず古いところもありますが、しばらくは「新着情報」で補いながら、研究会の全てがわかるようなものに直していきます。

ある研修会でともに学ぶ先輩からアドバイスをいただきました。2段組から3段組に、書体をゴシックから明朝に、文字サイズをとるところによって小さくし、漢字をできるだけ減らしてみました。意識しすぎると気ままな発行ができなく不安もありますが...。できるだけ、「読みやすさ」も大切にしていきます。みなさんのご意見、ご感想お待ちしております。激しかった台風21号が本格的な秋をこの谷にも運んできました。飯田りんご並木のりんごもすっかり色づきました。くだものおいしい季節、飯田へぜひおいでください。

【ご意見、お問合せ】 【配信解除】

沢柳俊之

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林梅昭

[kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)

## 「南信州いいむす21」登録証 新たに3事業所に交付!!



南信州広域連合は、この飯田下伊那地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の登録証を3事業所に新たに発行し、9月3日、飯田市役所で田中秀典・南信州広域連合長（飯田市長）から交付しました。発行日は、8月20日付けで、有効期限は、平成17年8月19日までの3年間です。昨年10月スタートした「南信州いいむす21」は、3月に4事業所が登録証の交付を受けていますので、登録事業所は、合計で7事業所となりました。

「南信州いいむす21」は、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の基本的な仕組みを簡易型にしたシステムで、審査などの経費は不要として、その事業所で取り組み可能な環境改善から始めて、徐々にレベルを上げていくことにより、着手しやすく、取り組みやすくなったものです。環境マネジメントシステム（EMS：Environmental Management System）の略、EMSを、E（いい）M（む）S（す）と名付け、この南信州地域で21世紀に展開していこうとするものです。

国際規格ISO14001は、飯田市役所が来年1月、認証取得から3年経過の更新審査を行わず、自己審査・自己決定・自己宣言により、その規格との「自己適合宣言」を公表し、準備を進めています。しかし、通常は、審査機関の審査登録を受けて認証取得することにより、構築・運用しているシステムが規格に適合していることを組織の内外に有効に示すこととなります。ISO14001では、52項目の「～しなければならない」という厳格な要求事項を満たすシステムの構築・運用が求められていて、費用面でも、かなりのハードルの高さとなっています。

ISO14001がシステムの100のレベルを要求しているに対して、「南信州いいむす21」は、システムの20や30であったとしても、取り組み事業所の数を増やして、地域全体の環境改善のレベルアップをめざすものです。そんなに単純ではないでしょうが、20事業所による100のレベルの取り組みは、100事業所による20レベルの取り組み

みに匹敵するとの考え方です。100のレベルを110や120のレベルにするのと、20レベルの取り組みを30や40のレベルに上げていくのは、どちらが難しいかです。

「南信州いいむす21」参加事業所は、自らの事業活動に伴って生じる環境負荷を低減させる仕組みを作り、環境方針、取り組み目標を自主的に定め活動します。資格審査を事業所所在市町村が行い、実際の取り組みの現地審査は、「地域ぐるみ環境ISO研究会」が行います。最低基準は、現状把握がされているか、取り組み宣言が表示されているか、取り組みが全員に周知されているか、実際に改善の行動がされているかの4点です。

今回、登録証の交付を受けた3事業所の主な取り組みは、次のとおりです。

（株）ダイマル サービス業

環境方針に「節電による二酸化炭素排出抑制」と「紙使用量の抑制」を掲げ、取組目標は、空調温度の適正化、空調フィルターの清掃、会議事務書類の簡素化など。

（株）丸中中根園 茶製品の卸売り・小売り

環境方針に「環境に配慮した製品の提供」。取組目標は、返礼品等の資材削減、荷造り段ボールの回収による包装資材の削減など。

（株）アース・グリーン・マネジメント リサイクル業

ISO14001の認証取得が済んでいますが、この地域への「南信州いいむす21」の定着と対外的なPRのため改めて登録手続きをとりました。ラベル・キャップ等の廃棄物10%削減、作業用フォークリフト燃料の5%削減など。

交付式の後の懇談会で、田中市長からは、市役所もそうだったが取り組みの当初はきっと余分な費用もかかるが、軌道に乗ると経費の削減という効果が現れてくる。（株）丸中中根園の中根さんからは、「南信州いいむす21」を意識しての取り組みではなく日頃から使い捨てを少しでも減らそうとしてきた活動がこのシステムで評価されたと考えている。（株）ダイマルの佐久間さんからは、青年会議所での昨年1年間の環境の勉強により、お金をかけなくても、社員一人ひとりのちょっとした配慮が環境改善につながることを知った。自分たちは何をすべきか電気と紙に絞って取り組んできた。担当者へ、そして社員全員へと教育を拡げてきた。（株）アース・グリーン・マネジメントの平栗さんからは、飯田市が、どんな商店にも、どんな会社にも「南信州いいむす21」が掲げられたまちになったら、どんなに素晴らしいだろう。そんな夢を仲間と一緒に持って、自らが「南信州いいむす21」の登録証を取得して率先していこうと考えている、と。

まず社長など事業所のトップの決断があって、社員へ下へ下へと説明し、理解を得て、取り組みが確実に広がっていくようです。時間はかかるでしょうが、この地域の文化が生まれようとしています。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之 [p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

小林敏昭 [kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp](mailto:kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp)